

静私・カ だより



- 夏の研修報告
- 防災講座
- 認定こども園訪問(しらゆりこども園)
- 子育てフェア(富士宮・焼津地区)
- 特集『親子で楽しむふれあい体操のすすめ』(その4)/前橋 明
- 絵本を見る目/「おはなし絵本」すずき出版
- 街ぶらり/天竜浜名湖鉄道周辺のレポート
- 健康随想/子育てカウンセラー実践例/伊藤千裕



NO.169
2013⑫
WINTER

夏の研修報告



学校評価研修会

平成25年8月6日、静岡市のグランシップ11階会議ホール「風」において、学校評価研修会が開催されました。



菖蒲幼稚園園長の四ツ釜雅彦先生、東京学芸大学教授の岩立京子先生を講師にお招きして、理事長・園長をはじめ、経験年数の多い先生など130名が受講しました。

四ツ釜先生は、「幼稚園施設における学校評価の意義と課題」というテーマで、認定子ども園菖蒲幼稚園・しょうぶ保育園の事例をもとに、ご自分の経験をお話しされました。内容は、「園の概要」「学校評価の取り組みのきっかけ」「いざ、学校評価の実施」「学校評価を実施しての効果」「継続していく上での課題」「何か、改善策はないだろうか」といった流れで、効果的かつ継続可能な学校評価を実施するにあたっての課題についてお話をされました。改善策としては、気張らずA4サイズの紙1枚程度に他の園と比較するものではなく、具体的な文章で次年度参考になるよう工夫しているとのことでした。

後半は4人のグループにな

り、「PDCAサイクルで学校評価の持続的、継続的な推進をするためには、どうすればよいか」「保護者や地域の人には学校運営を理解していただくための効果的なまとめと発信の仕方はどうあるべきか」というテーマでグループ討議を行いました。

岩立先生は、「保育の質の向上に生かす学校評価のあり方」というテーマでお話をされました。はじめに「幼稚園教育に対する社会的要請と今日的課題（保育の質に関する近年の議論）」という内容で、幼稚園教育の効果と成果を目に見える形で示し、投資（税金）が見合ったものであるということを証明するよう社会が要請していること。また、諸外国の研究成果やデータで幼児期の教育に対する投資効果が大きくかつ重要であることを示していただきました。そして、「幼児教育の課題」「幼稚園において学校評価を実施することの難しさ」「幼稚園における学校評価の実際」「学校評価を保育の質の向上に生かす」という内容のお話しをしていただきました。「学校評価は保護者の皆さんに保育の考えを知らせ、保育の深さを知っていただくチャンスにしていくことが大切である」と話され、研修会を終了しました。

初任者宿泊研修会

7月29日・30日の2日間、掛川市のヤマハリゾート「つま恋」にて静岡県

私立幼稚園初任者宿泊研修会が「素晴らしい保育を目指して」という研修テーマのもと開催されました。

1日目の講義1では「『いのち育む』の活用について」というテーマで研修副委員長の鈴木正篤先生にお話をいただきました。子どもの関わり、保育にとって大切なことを鈴木先生の自園でのエピソードを例に用いて、具体的に解説していただきました。

講義2では「1学期を振り返って」というテーマで元玉川大学教授の岩崎婉子先生からお話をいただき、失敗を恐れず、プラス思考で行動すること、また日々記録をとることで子ども達の成長がわかり、幼児理解ができるのだと記録の大切さを教えていただきました。

昼食を終え、午後は演習を行いました。演習1では「苦手をプラス思考で」というテーマでKANSAIこども研究所所長の原坂一郎先生にお話をいただきました。手遊びから始まり、最初は緊張気味の初任者たちも隣の人を交





えて手遊びを行うと笑顔が見られ、次第に講師の話に引き込まれていきました。保育者の役割は子どもを笑顔にすることであり「小さなできた」をたくさん経験させることであると

お話いただきました。また5つのお悩みスッキリ解決法を教えてください。何が起きてもプラス思考で乗り切ろうと笑顔いっぱいになるお話でした。

演習2では絵本の読み聞かせをグループごとに行い、お互いに読み聞かせを行いながら絵本を読むときのポイントや注意点を演習しました。

夕食後、グループに分かれて1学期を振り返り、反省点や嬉しかったことなどを互いに話し合い、同調したり共感したりしながら有意義な時間を過ごしました。



2日目午前の演習では「遊びを創造へ」というテーマで東京家政大学教授の花輪充先生にお話しいただきました。擬声語の表現を使って遊んだり、二人一組やグループで

イメージを膨らませる遊びを行いました。

午後の実技研修では「幼児の紙製作」というテーマで四天王寺大学准教授の村田夕紀先生による紙製作を行いました。

そして最後に閉講式を行い、たくさんの方の講義、演習、実技から多くの学びを得て宿泊研修を終えました。

教育研究講座

8月5日、静岡市のグランシップにおいて教育研究講座が開催されました。本年度は、経験年数により4〜7年目と8年目以上の教員を対象に2会場で行われました。

【4〜7年目 会場「1001」】

午前は、長野県短期大学准教授の大南匠先生から「子どもから音楽的表現を引き出す」をテーマに北イタリアのレッジョ・エミリア市の実践例を通して子どもの表現について考えたり、保育現場における音楽活動のポイントなどについて実技を入れたりしながら話してくださいました。

午後は、聖心女子大学教授の河邊貴子先生から「遊びの質の向上のための保育記録を考える」をテーマに遊びの質について具体的な観点をあげてのお話や記録することと保育することの相関関係をもとに保育記録がなぜ大切かを話されました。後半は、受講者が持ち寄った写真をもとにどんな育ちがあ

るのか、どんな面白さがあるのかなど6人グループでワークシヨップを行いました。最後に、「継続して記録を取ることと子どもを理解するために記録を取るものが大事である」と講師の先生がまとめられて研修会を終了しました。

【8年目以上 会場「風」】

午前は、國學院大学教授の神長美津子先生から「子どもの成長を理解し、保育を楽しむ創る」をテーマに、講義とビデオを見て考える「演習」が行われました。子どもと共に創る保育のポイントとなる要素として「①幼児理解を深める②保育を構想する③幼児の主体的な活動を確保する環境を構成する④幼児一人ひとりの活動を豊かにする援助を行う⑤保育を振り返る」の5点を挙げられました。そして、幼児理解をより深め、次の保育へつなげていくことの繰り返しであると話されました。

午後は、山梨大学教授の加藤繁美先生から「保育の記録を活かし幼児一人ひとりの成長を支援する」をテーマに実践記録は対話する保育の必要条件であるというお話でした。

さらに加藤先生の幼稚園勤務経験での具体的な事例をあげたり絵本やスライドを見せたりしながらの楽しく分かりやすいお話で、盛大な拍手の中で研修会が終了しました。



防災講座

8月8日、遠州地区私立幼稚園協会の防災講座が、パレスホテル掛川で開催されました。

同地区の夏期教員研修会の一コマとして行われ、15力園の園長・主任クラス26名が参加し、県西部危機管理局危機管理課班長の青島達広さんから「**第4次地震被害想定**の解説」を受講しました。

今年6月に第4次被害想定が出されたが、東日本大震災が今回の被害想定につながっていること「想定外」をなくすというコンセプトで作られていることなどの概要をまず説明されました。

さらに、地震は100年から150年周期で起きており、第3次被害想定までは予知を前提に想定されてきたが、今回の第4次想定では予知が難しいと考えて作られていること「想定外」をなくすということ、被害の最大規模を考えなくてはならず、千年から数千年に1回程度の発生頻度とされる「レベル2」の被害予想も入っていること、想定は最悪の被害結果を書いているので、すべてこの通りになるわけではないこと、ケースの中で自分の地域がどうなるかを見てもらいたいことなどを話されました。

県西部地区では、揺れによる建物倒壊による被害が大きな割合を占めているので、家具などの転倒・落下防止対策が現在の実施率（約70%）から10%上がると、死者数が100人（約15%）減り、実施率

100%になれば400人（約60%）減ることなど、対策の重要性を強調されました。

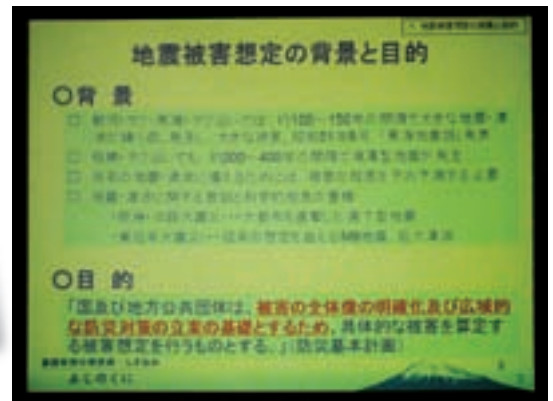
最後に、100年から150年周期の地震は必ず起きることや、地域にどんな災害が起るかわ知っておくことが大切なこと、さらに秋以降に公表される第4次被害想定第2次報告では、第1次報告の市町単位の被害から、市町内の大字単位の被害想定が出る予定であることなどを話されました。

被害想定解説に続いて、各市ごとに園が分かれ、それぞれの市の防災担当者と顔合わせや資料説明、意見交換などを行いました。

市の担当者と初めて話す園も多く、市がどんな被害を想定しているのか、どんな防災計画を立てているのか、地震が起きた場合の市の動きはどのようなものかといった質問や、避難場所、避難経路、備蓄品についての説明なども合せて受けました。

また、「家族構成に合わせた非常持ち出し品や備蓄品の準備」「寝具の回りに家具を置かないこと」「枕元には靴やスリッパを置く習慣を」「階段や廊下に物を置かない」「携帯電話は常に手の届く範囲に置いておく」「小さくてもいいので懐中電灯を持つこと」など、日ごろから注意すべきことへのアドバイスを受けました。

私立幼稚園は市よりも県との接点が多く、近いながらも市行政と接触することが少なかったが、今回の研修を通じて情報交換、交流ができ、地区、園にとつて非常に有意義な防災講座となりました。



認定こども園訪問

今年4月に開園した湖西市の、しらゆりこども園を平成25年9月9日(月)に訪問し、白井祐子同園総園長からお話をうかがいました。

★認定こども園、保育園部について、いつ頃から開園の準備活動をされましたか。

平成22年春、当幼稚園の3歳児の定員を満たし、満3歳児も予約で一杯となり、4月以降3歳に達した子どもの受入ができず、入園をお断りせざるを得ないことになったことがきっかけでこども園の検討を始めました。

同年8月に湖西市子育て支援課に打診し、平成24年4月の開園を計画しましたが、隣接土地の購入などの関係もあり、1年先の開園となりました。

★移転新築のために必要な土地の手当てや資金面はどうですか。

土地は、幼稚園の隣接地の駐車場、約1000㎡を購入しました。

建物は子どもにやさしい木造の2階建て、全館年中一定温度で生活できるジオパワーステムを導入。建築面積497㎡延べ床面積663㎡で約1億7千万円かかりましたが、約4分の3公的助成を受け、残りは金融機関からの借り入れなどで賄いました。

★保育園の在園児や職員の採用はどうだったのですか。

保育園部の定員は75人ですが、現在、0歳児3人、1歳児12人、2歳児8人、3歳児7人、4歳児2人、5歳児3人の計35人が在園しています。

保育園部でパートさんを含め17人が働いていますが、6人は幼稚園部からの移籍です。幼保それぞれの部署により勤務時間が異なり、保育園部はシフト表の作成に苦労しますが、保育園勤務経験者が多いほどスムーズに開園できると思います。

なお、給食施設で働いているのは入札で決めた委託業者からの職員です。今後とも出来る限り幼保の職員が連携し応援し合うような体制を作り、保護者の方が安心して預けられる保育園部を目指していきます。

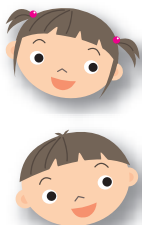
★学校法人で幼保両方を経営しているわけですが、学校法人の会計面ではどうですか。

経費は幼保で別々にし、光熱水費等もメーターを別にして分けるなどとしています。

人件費を考えるとしばらくの間はマイナスと思っていますが、子どもさんを預かった以上責任を持って運営していきます。

※同園は浜名湖の西側で、自然豊かな環境に恵まれたところにあります。また、同園から800メートルくらい離れた地に

グリーンランドという広場を所有し、そこからは浜名湖が見られます。清潔で温かみのあるすばらしい新木造園舎で、子ども達は元気いっぱい遊びを楽しんでいます。





『富士宮地区子育てフェア』

富士宮地区（10園）の子育てフェア
ーが6月1日（土）朝霧高原の「まかい
の牧場」で開催されました。

当日は心配された天気も晴れとな
り、約5千名を上回る親子に参加して
もらい、大盛況でした。メイン会場での
全体会では、地区長市長の挨拶につづ
き、まかいの牧場による動物クイズが
ありました。本物の

羊を前にしてのク
イズもあり、親子で
答えをだしあったり
して楽しんでいま
した。次は親子で楽
しむダンスタイムで
す。10園の先生達が
交代で舞台上がり、見本を見せます。

各幼稚園で事前に園児達にはダンス
を教えています。大人は初めてです
ので、戸惑いもありましたが、園児達
の踊る様子を見て、会場内ではダンス
の輪が広がっていきます。親子同士の
ダンスはもちろん、園児と園児、小学
生と園児、祖父母と園児などいろいろ
な組み合わせのダンスの輪ができてい

子育て フェアin 富士宮

ました。全体会の最後は大道芸です。
ジャグリングや大きな一輪車の曲乗り
などを見て大歓声です。

全体会は午前中で終了しましたが、
イベントは午後まで続き、うさぎと遊
んだり、馬に餌をやったりと動物と触
れ合う親子、バター作りやパン作りに
挑戦する親子、草の急斜面を滑る園児
とそれを見守る親達、大道芸を楽しむ

親子とそれぞれの
楽しみ方で、有意義
な1日をすごしまし
た。



「焼津地区子育てフェア」

焼津市私立幼稚園協会主催による「チャイルドチャレンジ2013」が11月15日(金)、焼津市総合体育館のメインアリーナにて盛大に開催されました。当日はあいにくの雨模様にも関わらず、約1500人もの子と達とその家族がご越しくださいました。

本会は「子育てフェア」の一環として、私立幼稚園在園の親子並びに未就園の親子がゲームや遊びを通じて触れ合いを深めることを目的としています。

昨年度は長年続いた「チャイルドチャレンジ大会」に変わり「音楽パラエティシヨ」を行いました。今年度は内容を練り直し、再び「チャイルドチャレンジ大会」にチャレンジ。会場には協会加盟の13ヶ園が協力し合いながら設けた6つのゲームコーナー(チャレンジ)が、期待に胸を膨らませる子ども達を出迎えました。

来場した子ども達はみな目を輝かせながら、また、親子で歓声を上げながら真剣にゲームに興じていました。「レッツボーリング」「ちびっこシューター」や「ヨーヨーを作ろう」など、

無機質なコンピューター相手のゲームとは一味も二味も違う、先生達の手作り感溢れる温かみのあるゲームが目白押しでした。

1つのチャレンジに成功すると子ども達は、首から提げているペンダントにシールを1つ貼ってもらい大喜び。6つ全て貰った子ども達はとても満足げで、また誇らしげでした。そして、帰りには勲章のペンダントとお土産のヨーヨーを手に、親子で微笑み合っている姿がとても印象的でした。

ゲームのクオリティがどうこうではなく、やはり、そこには先生方の愛があり、その愛情溢れる環境(ゲーム)のもと親子で一つの物事

(ゲーム)に共感しながら汗を流すことができた今大会は、とても有意義な機会になったと感じました。また、未就園の保護者の方々にも私立幼稚園の「こどもがまんなか」の精神や、各々の学園が特色ある建学の精神(雰囲気)を持ちながらもお互いに連携と強調を図り、公の基礎教育機関としてしっかりと地域に根差していることをPRできたのではないかと思います。



子育て フェア in 焼津



親子で楽しむ ふれあい体操の ススメ



5. 幼児と中学生のふれあい体操

(1) 生徒の感想

ふれあい体操を行った中学生からの声を紹介してみます。

1年生の女子からは、「小さい子と遊んで、いっぱい笑顔をみることができて良かったです。Mちゃんは、すぐになついてくれました。私が座ると、その上に乗ってくれます。とっても嬉しかったです。」「小さい子とふれあう機会がなかなかないので、こういう時間は大切にしようと思いました。」「最初、泣いてしまうんじゃないかなって不安だったけど、人とのふれあいは、心を和ませてくれるよいことだとあらためて思いました。」「短い時間の中、みんなとふれあって、かわいい笑顔を見ることができて、すごくうれしかったです。また、こういう機会があればいいなっ

て思いました」

2年生の男子は、「はじめは、ぎこちなかったけど、いっしょに体操をしている間に心が開けてきて、授業が始まって10分ほどすると、僕のひざの上に座ってくれるようになってうれしかったです。その一瞬、親になった気がして、少しうれしかったです。」「いっしょに体操をしていて、A君が笑ってくれると、僕までうれしくなってきました。そして、別れるとき、少し寂しさを感じました。」「この授業を通して、いろいろなことが学べたと思います。また、このような機会があれば、ぜひ、いっしょに運動したいと思いました」

また、2年生の女子からは、「今日、久しぶりに幼稚園の子とふれあいました。私は、隣の子、Sちゃんでした。普段は、全然、しゃべらない子なのに、いろいろ話しかけてくれたり、



早稲田大学 教授 / 医学博士
前橋 明

倉敷市立短期大学教授、米国ミズーリー大学客員研究員、米国バーモント大学客員教授を経て、現在、早稲田大学人間科学学術院教授。

【社会的活動】

インターナショナルすこやかキッズ支援ネットワーク代表、日本幼児体育学会会長、日本食育学会協議会頭、日本幼少健康教育学会副会長、日本レジャー・レクリエーション学会理事

【受賞】

1992年 米国ミズーリー州カンサスシティ名誉市民賞受賞
1998年 日本保育学会研究奨励賞受賞
2002年 日本幼少健康教育学会功労賞受賞
2008年 日本幼少健康教育学会優秀論文賞受賞
2008年 日本保育園保健学会保育保健賞受賞

(2) 先生方から期待されたこと

幼児といっしょに参加された幼稚園教諭や保育士の先生方より期待されたことがらを、以下に整理してみました。

(1) 実際にお互いがふれあう中で、お互いの力加減を知ったり、相手の気遣いに気づいたりすることができるようになる。年齢の近い子ども同士では、得られにくい体験であろうと思われる。

(2) 異年齢の交流を通し、親しみを感じるこ

とで、言葉をかけ合うきっかけとなり、地域の人間同士としてのつながりを意識する良い機会となる。

(3) 幼児からすれば、親しく声をかけられたり、思いやりのある接し方をされる経験をする事が、幼児自身が成長した際に、年下の子どもに対する親近感をもって自然に接することのできる気持ちや態度の育成につながる。

(4) 『肩が凝る』という保護者の言い訳で、親子でからだを動かしてふれあう経験がほとんどなく、肌がふれあう安心感を知らない乳幼児が多くなります。そうした乳幼児が、中学生との交流を通して『ふれあい』体験の機会を得ることは、次世代の子育てに良い影響を及ぼすと考える。

(5) 乳幼児にとつて、年齢の離れたお兄さんやお姉さんは憧れの存在であり、具体的な目標としての存在でもある。身近にそうしたモデル(お手本)を感じられることは、今後の自分自身の成長に対する期待感や希望のもてる好ましい環境となると考えられる。

(6) 幼稚園や保育所の教職員にとつて、卒園児が学童期から青年期へと成長する過程の姿にふれることができ、より長期的な成長の中で、乳幼児期の発達や保育を見直す良い機会となる。同時に、隣接している学校や同地区の生徒に対する親近感をもつことが、学校単位だけではなく、広く子どもたちの成長を支援する体制につながることも期待される。

6. 祖父母とのふれあいあそび

今日のおじいちゃんやおばあちゃんは、まだまだお若いのです。資料で示した親子体操の中から、

飛び跳ねて膝を痛めない運動や子どもを持ち上げて腰を痛めない運動は避けて、からだに負担がなく、お孫さんと楽しくできるものを行って、楽しい思い出をたくさん作ってもらいたいと思います。

また、祖父母の方が、座ってできたり、子どもだけが動いたりする「ふれあい体操」もありますので、状況に応じて、体操の種類を選んで実施してもらいたいですね。かけ声や合図だけで、子どもたちは十分楽しく、からだを動かすことができるのです。



(写真 11) 祖父との体操

足長チャンピオンは、どっち？



ひこうき



タオル引きをしながらボートこぎ



幼稚園教諭になって

焼津中央幼稚園

小川佳穂

焼津中央幼稚園に就職が決まった時、私は嬉しさと期待でいっぱいでした。しかし、時間が経つにつれて「私が先生になるんだ」と今までに感じたことがない気持ちになり、クラス発表時には嬉しさより不安な気持ちになったのを今でもはっきりと覚えています。しかし、まだ違ったことのない子ども達の姿を想像しクラスの壁面作り、新学期準備に没頭するといつの間にか不思議と不安が期待へと変わっていききました。

入園式で初めて自分のクラスになる子ども達と出会い「この子ども達の担任は私なんだ」という責任感を強く感じました。入園当初は「ママがいい」「ママに会いたい」と毎日泣いている子ども達が多かったのですが、少しずつ幼稚園での生活に慣れ、今では元気よく「先生おはよう」と笑顔で挨拶してくれる姿に嬉しさを感じています。

幼稚園教諭になって約3ヶ月が経ち、一番感じることは子ども達の日々の生活の中で見られる成長です。昨日まで何度言っても食べなかった野菜を一口食べられるようになり、自分から嫌いな物を進んで食べる姿。入園当初は一人で遊んでいた子どもが「遊ぼう」と言って友達を誘い合って子ども同士で遊んでい



る姿など、何気ない日常の中で子ども達は成長しているということを感じています。

私自身もそんな子ども達に負けなように頑張っていますが、分からないことが多く毎日が勉強です。その中で自ら考えて自分の力でチャレンジすること、経験豊かな先生に的確なアドバイスをいただきながら保育することの大切さを感じています。

まず、先輩の先生に全て頼ってしまっても自分の為にならない、かと言って自分の考えだけで行ってしまうてもまだまだ勉強不足で子ども達の為にならないこともあります。私にとって先輩の先生の存在は大きく、保育からたくさん学ぶ、たくさん経験をしようというように努力をしています。

まだまだ未熟で失敗もたくさんありますが、時には落ち込んでしまうこともあります。子ども達の素敵な笑顔からたくさん元気をもらい、これからも楽しみながら保育を行い、子どもと一緒に成長していきたいと考えています。

笑顔の保育

須津幼稚園

加藤理沙

ずっと憧れていた幼稚園教諭。自分の卒園した幼稚園で、しかも小さい頃お世話になった先生方と一緒に、というすてきな環境で、いまその夢が叶っています。

4月から年少児の担任として、保育がスタートしました。あつという間に過ぎていく毎日。前日に「明日はこれをこういうふうにやろう」とイメージトレーニングをしても、その通りになんていかずに失敗ばかり。その度に、「自分

はなんでこんなにできないのだろう」と落ち込み、自分の保育に自信を持てずになりました。



うすれば良くなっていけるのか。どれもが分かりやすく、直していききたいことばかりでした。頭では分かっているつもりでも、なかなか実行できずに悔しい思いをしていました。しかし、その中で1つ、今の私にもできることがあります。それは、「笑顔でいること」です。今までの私は、他のクラスに遅れないようにとか、上手く保育をしようとするばかりで、「笑顔でいること」「子どもと一緒に楽しむこと」を忘れていました。それは一番簡単にできることであり、一番大切なことだと思っています。

しかし、子ども達はそれでも「先生、先生」と笑顔で寄って来てくれます。綺麗なお花や不思議な生き物を発見したり、嫌いな食べ物や一口食べられないようになった時は、一番に私に伝えてくれます。おもしろいをしてしまったり、一人で着替えができなかったりした時は、一番に私を頼って来ます。私は、はつとしました。子ども達にとって、1年目とか関係ない。先生は先生なんだ。

ベテランの先生に、いろいろなアドバイスをもらいました。制作の説明の順番、声かけのタイミング等。今の自分がどうなっているのか、ど

自分が園児だった時のことを思い出すと、そこにはいつもニコニコの先生たちがいました。そんな笑顔の先生と居ると安心して、自分を認めてくれていたような気持ちになりました。私も、そんな先生たちのように側に居てほしい、一緒に居ると楽しくてワクワクすると思ってもらえるような存在になつていきたいです。

毎日元気いっぱいの子どもの笑顔とパワーに負けたくない、私も笑顔で楽しい保育をしていきたいと思っています。



保育の窓 コミュニティ

教諭生活20年の回顧

北浜幼稚園 上村 陽子

幼稚園教諭となり、気が付けば20年を過ぎていました。自分が卒園した園に就職させて頂き、始めは何も分からず、園長先生をはじめ先輩の先生方に色々なことを教わりながら、まわりの皆さんに支えられて過ごしてきたことを懐かしく思い出します。



また、保護者からも家庭での子ども様子など情報を収集することで、園での関わり方や対応のヒントになることも再確認しました。家庭との連携を図るために、教師と保護者がお互いを信頼し、協力し合える関係をつくることの大切さを学びました。

あどけなく無邪気で、自分の世界だけで遊んでいた3歳児が、友だちと協力しながら物事に取り組むようになり、凛々しい姿で卒園していくのを目の当たりにし、子どもの能力の可能性の大きさを実感しています。子どもとの触れ合いの中でたくさん

もを持つ一保護者として、親の立場からの考えもできるようになり、同時に保育に対する考え、姿勢も変化したように思います。

その一つとして、親というものは子どもの園での様子が気になりますので、保護者に子どもの様子を伝えることを心掛けるようになりました。子どものマイナスイメージになる様子というより、良い面や成長が感じられるプラス面を前面にし、日々子どもの姿をよく見ていこうとすることを意識するようになりました。

さんの発見、新たに教えられること、信頼し合う喜び、そして子どもたちの笑顔に癒され過ごす毎日です。子どもはもちろん、保護者の方々との出会い、たくさんのお会いを大切にしなければと思っています。

まだまだ多方面での見聞を積極的に行い、勉学に励み、又我が園の歩んできた歴史を誇りに思い、地域の皆様に愛される園としてますます発展していくことを願い、今後も精進してまいりたいと思います。

大切な言葉「ありがとう」

裾野聖母幼稚園 長岡理江子

「ありがとう」という言葉を、私は一日何回言い、そして言われているのだろうか？数えたことはないが、幼稚園の教師になってからその回数はぐっと増えた。以前は一般の会社で販売の仕事をしていて、その時にも「ありがとう」が聞かれた。何回も言っていたが、その言葉には心がこもっていないように思



てあげても反応がなかったり、「してもらって、すいませんねえ」という言葉しか返してもらえない。私はそんなことを聞きたかったのではなく、一言「ありがとう」が聞きたかったのだ。一緒に暮らし始めたころはそれが不満に思えて仕方なかったが、ちよつとしたことでも私から頻繁に「ありがとう」と声を掛ける

ことによって夫はだんだんと「ありがとう」と言ってくれるようになってきた。当たり前なことにも「ありがとう」と言われると、もつと何かできないかなと周りに敏感になることができる。ちよつとした一言が生活を豊かに楽しくしてくれることを感じている。

私はあまり人前で話をしたり、自分の気持ちや上手に表現できる人間ではなかった。だからふとした時に話し掛けられても言葉が出てこないことが多く、後で反省することばかりだった。だから以前の職場で使っていた「ありがとう」はマニュアル通りの言葉であって自然に口から出てくる言葉ではなかったように思う。

幼稚園の教師となり10年が経った。私の勤めている幼稚園では特に「ありがとう」という言葉を大切にしている。子どもに対しても同僚に対しても、もちろん保護者に対しても。幼稚園全体が「ありがとう」であふれている。そんな環境に対して敬意を表し自然に「ありがとう」が出るようになった。

「ありがとう」は普段の生活でも良い影響を与えてくれた。私の夫は恥ずかしがりやでどちらかといえば無口なほうである。だから何かをし

とだが、それを言葉にしたのが「ありがとう」だと思ふ。言われて嫌な思いもしないし、言われて嫌な気持ちになることもない魔法の言葉だと思ふ。保育の場でも「ありがとう」という言葉を子ども達は待っているし、自然と言える子になってほしいと思う。それには私たち教師が「ありがとう」であふれた環境を作っていくことが大切だと感じている。これからは「ありがとう」をいっぱい表現できる人間に、そして、「ありがとう」と言ってもらえる教師をめざしたいと思ふ。

こどものくに
を推薦します

西本鶏介

昭和女子大学名誉教授
児童文学者

子どもの心を育てる 月刊のおはなし絵本



子どものときに心に残ったおはなしは、
一生忘れることはありません

子どもたちは、みんなおはなし好きです。もし「おはなしが嫌いだ。絵本なんかいやだ」という子どもがいたら、それはその子が悪いのではなく、その子どもが絵本の楽しさ、おはなしの楽しさを知る心をだれにも教えてもらわなかったということなのです。幼稚園や保育園で、「先生が本を読んであげてもなかなかきちっと聞いてくれない」という声を聞きます。それは、おはなしを聞く楽しさを知らないからで、工夫をして話してあげれば、必ずおはなしや絵本の好きな子どもになります。

物が豊かになりすぎた今日の社会では、人間が感動しなくなっていることはたしかです。何をもらっても、喜んだり、うれしがったりする子どもが少なくなっています。でも、子どもたちが感動する心を忘れてるのは大人の責任だと思います。感動させてあげる心を持った大人が、とても少なくなったということです。どうすればその心を取り戻すことができるか。うれしいときには飛び上がって喜び、悲しいときには声をあげて泣く、そんな豊かな感性を育ててあげることができる絵本の役割は、ますますたいせつです。

育てよう
感激する心を

月刊おはなし絵本

こどものくに

たんぽぽ版（年少向け）



チューリップ版（年中向け）



ひまわり版（年長向け）



すずき出版

感謝の気持ちで過ごす日々

沼津聖マリア幼稚園 母の会役員

保坂 元子

秋も深まり、あちらこちらの幼稚園で運動会が終わり、また二回り大きく成長した子ども達の姿を目にし、喜びを感じています。

2年半前、現在年長である長男の入園式1ヶ月前の3月11日に、多くの命が奪われ、多大な被害を生じさせ、皆が深く悲しみに陥った東

日本大震災が起きました。その傷が癒えぬままでの入園式に、皆で黙祷したことを思い出します。復興も半ばで、まだ悲しみを抱えた多くの方がおられる中、今年4月には次男が入園し、毎日元気に兄弟揃って登園する姿に、健康に生まれ、人の温かさに恵まれ、皆に支えられ平穏無事に過ごせている有難さを身にしみて感じています。



今まで祈る機会のなかった私は、子ども達が入園してから、毎日お祈りし、神様やいろいろなものに対して感謝する姿から、多くのことを学び、多くの清らかな時を与えられています。日常の慌たしさから、大人は「祈る、感謝する」ということが二の次になってしまいがちですが、子

ども達は日々お祈りを重ね、小さな心の中でいつも神様に感謝しています。厳粛な雰囲気で行う「聖堂での様々な祝福式、発表会での歌や踊りだけでなく、園に出向いたときに窓から聞こえるお祈りや歌はとても温かなもので、いつも神様や先生方が子ども達を守って下さっている」と感謝の気持ちでいっぱいになります。

先日、2020年オリンピック開催地に東京が選ばれ、日本中が喜びに沸きました。世界では戦争や飢餓により、オリ

ンピックの存在すら知らない子ども達がたくさんいる中で、日本が開催地として立候補でき、選ばれたことに感謝しております。これから7年間、震災後の復興が進み、福島第一原発事故問題の早急な解決が期待されています。

子ども達は間近で行われるスポーツを通じての平和の祭典に向けて、夢と希望を持つて過ごすことができるでしょう。その機会が日本の子ども達に与えられたことは、感謝と同時に、世界に平和やその有り難さを伝える義務でもあると考えています。これから成長していく子ども達と、そのオリンピックの大きな意味を考えながら、日々過ごしていきたいと思っています。

貴重な経験

智光幼稚園 父母の会会長

大石 有香

私には、小3の長男と本年度智光幼稚園に入園した年少の次男がいます。外で遊ぶことが大好きな長男と「何で?」「どうして?」といろんなことに興味を示す次男、育児に協力してくれる主人に囲まれて毎日楽しく過ごしています。

私も主人も智光幼稚園の卒園児で、自分達の子どもが産まれたらこの幼稚園にと決めていました。私が通っていた頃と変わってしまったところもありますが、そのまま残っている園舎や遊具を見ると当時の事を懐かしく思い出します。子どもが口ずさむ園歌を一緒に歌えることも恵まれた環境で生活出来ることに感謝の気持ちを抱く毎日です。



「つり」という夏祭りに変わり、父母の会主催の最も大きな仕事のひとつになっています。企画から運営まで、すべてをクラス役員達で決めて行っていくため、とても大変な仕事です。「ひまわりまつり」は、ゲームをしたり、買い物をしたり、盆踊りをしたり、バザーがあったりと、毎年子ども達がとても楽しみにしています。

私はフルタイムで仕事をしているため、恥ずかしながら長男が在園中は、父母の会の活動に積極的に参加をしています。本年度、父母の会の会長という大

役をやらせていただくことになり、正直、初めは戸惑いと不安の気持ちでいっぱいでした。ですが、役員の方達と打合せを重ねていく中で、今年の「ひまわりまつり」も子ども達の笑顔がたくさん見られるような、そして大人になっても覚えていてもらえるような思い出のひとつになるよう、精一杯頑張っていきたいという思いに変わりました。

幼稚園に行く回数が増え、子ども達の普段の園での様子が見られたり、先生方とお話が出来たりと嬉しいことがたくさんあります。幼稚園と深く関わりが持てるこの一年は、私にとっても貴重な経験になると思っています。

天竜浜名湖鉄道

第7回「街ぶらり」は、天竜浜名湖鉄道に乗って、沿線のおすすめスポットをご紹介します。移動は02の排出が少ない「スマートフォン」により計画しました。

◆アクセス抜群の天浜線

私達はJR浜松駅に集合し、遠州鉄道を利用して西鹿島駅で天竜浜名湖鉄道（以下天浜線）に乗り換えました。JRの駅では、掛川駅と新所原駅からも乗り継ぎができ、意外にアクセスが便利です。



◆車内は不思議がいっぱい

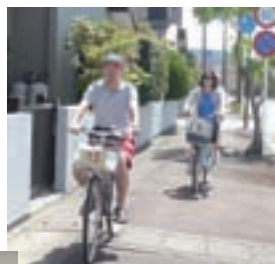
車内は、バス同様の料金表に整理券を配布するようなものがあり鉄道の方に聞くと、駅は有人駅と無人駅があります。無人駅では切符を販売していないので、バスと同じように乗車の際に整理券をとり、降車の際に清算すると



いう方法とのことでした。

◆レンタサイクル

遠州森駅構内にあるレンタサイクルで、究極のスマートフォンプである自転車をお借りして、森町を散策に出掛けました。天竜二俣駅、気賀駅、三ヶ日駅でも行っています。



◆ジェラートの店「アリア」

あまり宣伝はしていないお店ですが、口こみで有名になった新感覚アイスが楽しめる場所です。看板も高柳米穀店内にあるので、通り過ぎしてしま



いそうでした。中に入ると季節によつて変わる色々な味がたくさんあつて迷ってしまいます。そんな時は、好きな味を5種類少しづつ食べられる「彩り」480円（写真）がおすすめです。

◆元祖梅衣「栄正堂」

明治の末より皇室の御用命を受けて

沿線

いた「梅衣」というお菓子が有名なお店です。静岡国体でも秋篠宮同妃両殿下が立ち寄られ、ご賞味されたそうです。私たちも温かい雰囲気のおかげに歴史や出来事などを聞きながらおいしくいただきました。おいしくて日持ちする（1週間くらい）ので、お土産に絶好です。



◆転車台と鉄道歴史館見学ツアー

天竜二俣駅では、昭和初期にタイムスリップしました。いずれも昭和15年頃作られた、高架貯水槽や事務室休憩所などを見学し、扇形車庫から転車台へ列車がどのように移動するのか見ることができました。鉄道歴史館は昔の鉄道アイテムがいっぱいで、愛好者は離れなくなるそうです。

◆フルーツパーク時之栖

2013年4月から時之栖が指定管理者として管理・運営するようになつて変しました。フルーツパーク駅に到着すると、無料の送迎バスが待っています。園内のアクティビティも充実しており、私たちはセグウェイに挑戦しましたが、思ったより簡単に楽しむことができました。レストランではソーセージや御殿場高原ビール、ワインなどを楽しむことができます。



ゼロから始まる生みの苦しみ



子育て支援カウンセラー 伊藤 千裕

灰色を含んだ絵筆を高く掲げた右手は、宙に浮かんで静止したままだ。実はこれが5度めの挑戦だ。最初はどこから始めたらいかがわからず、2度めはすぐ横で聞き慣れた先生の声があったので、すぐる思いで振り向いた。彼が困っているといつも何度でも根気良く支え自信を与えてくれた特別な存在だから、目の前のことそっちのけで声のしたほうを向いてしまう。3度めはカッンと高く響く音に振り向いて、静止画像のように固まってしまった。とうに描き終えた子ども達が片づけのふりをしながら内緒の水遊びのさなか、パレットがシンクに落下した音だ。4度めの試みで空中に手を止めた彼は、ドアの脇にたえず私を見た。その距離1・5メートル、お互い目をまん丸にして見つめあい1秒、2秒、絵筆は再びパレットへ。私はそこで初めてただ見守る姿勢を崩した。本来は極力距離を置いて観察する姿勢を保つのが常だが、このときばかりは彼を勇気づけ励ましたくなったのだ。彼と目を合わせ無言で2度、3度深くうなずきながら（大丈夫あと一歩。勇気を出して）とあらん限りの念力をこめてテレパシーを送った。次の瞬間、彼は白く広がる大海原へ飛び込んだ。上下の端から端までくつきりと灰色の線が引かれた。（やれやれ）固唾を呑んで見守っていた私は、安堵の吐息をもらした。まだまだゴールは先だ、そ

う思い再び目をやると、四方に伸びていく灰色の道のネットワークがすでに生まれつつあった。いつのまにやら彼の横顔には生き生きとした笑みすらあらわれている。もはや私の視線を求めてくることも無い。しばらくして、画板を手に意気揚々と大好きな先生の元へと向かう誇らしげな彼の後姿を遠目に、私は少し拍子抜けした気持ちを味わっていた。

さて、ここからは私のカウンセラーとしての仮説と検証の分析だ。そもそも彼にとつて、あのはじめの一歩は、なぜあんなにも重く不自由だったのだろう。もしかしたら彼は（ゼロからのスタート）が特別に苦手なのかもしれない。ゼロを1にすること、それはすなわち真っ白な何も無い画用紙に最初のを線に引くことだ。ゼロを1にする大変さに比べたら、1を2に2を3にするのは造作も無いことだから、取っ掛かりさえつかめればあとはするすると進む。果たして彼は独力でスタートできたかと問われたら、困難だったかあるいは条件が整えば可能だったと推測できる。もし時間が不足したり適切な支持が無ければ、開始すらできず成果も得られなかった可能性も考えられる。こんな風にカウンセラーとして誰かの行動や心を理解しようとするときは、似たような体験の記憶を私自身の心のなかに探しては

想像をふくらませていく。この日（ゼロからスタートする大変さ）について、私のこれまでの人生、とりわけ子どもをの頃を振り返りつつリアルに思い出すと試みた。思えば誰の人生だってそもそも（ゼロからスタートする大変さ）の連続のはずではないか。初めて補助輪無しの自転車にまたがりペダルを踏み出してよろけた日。初めて水に顔をつけ恐る恐る水中で目を開けた日。初めて背の高さよりも高いところから飛び降りて、体を貫く衝撃と痛みを感じた日。初めて素手で捕まえようとつまんだら、一目散に飛び去るクマ蟬の力強い羽音と風圧を頬で感じた日。初めて鬼ごっこで鬼になり泣きたいような心細さを覚えた日。誰もがいつかどこかで味わったはずの感覚だ。

ざわついた場所ではやるべきことに集中できず気が散りやすい子、優先順位を決めたり切り替えが苦手な子、目には見えない気持ちやルールを汲み取ることが苦手な子、新しいことを敏感に感じ取り不安になりやすい子などなど、総合的な能力に問題は認められないけれど、ある種の生きにくさを抱えている気になる子どもたちの割合が全体として増えていると聞く。彼らは確かに個性的で独自の世界を生きている。とはいえ似た経験や感情体験は、我々のなかに確かに存在している。ただそれらを取るに足ら

ぬこと、ごくあたりまえの出来事としてしか意味づけしていないから、彼らの世界を理解しようとするときは、意識的に精一杯の想像力と共感を駆使して探しだして照らし合わせる必要があることになる。彼らの世界を心理面から紐解き通訳し周囲の人々に伝える。彼と彼をとるまじく世界や人間関係がより豊かに親密に発展していくことを願いつつ。来春、彼は小学校という新しい環境に飛び込んでいく。まさに（ゼロからのスタート）の連続だ。これから彼が辿っていくであろう山あり谷ありながらも実り多き道の先々で、ためらいながらも渾身の一步を踏み出そうと奮闘する彼を、折に触れて励ましては根気強く導き、ときに温かく見守り受けとめてくれる存在があることを切に願うばかりである。





おいしくて
ほった落ちそう



のぼり棒でおサルだぞう



木登りウィキークー



みんなで芝生にごろーん



かわいく仮装できたでしょう?



おおきなお芋 とれたよ!



寒さに負けず
「ヤッホー!」



最後まで全力!!



宇宙のパン屋さん。みんないらっしゃーい!!



採れたておも
おいそう

【編集後記】

2学期も終わろうとしています。クリスマスの季節です。北国生まれの私は、白銀の世界を眺めながら「本当にサンタクロースはそりに乗り雪の上を滑るようにやってくる」と信じていました。
しかし、静岡県に引っ越してからは「アスファルトの上をどんな風に滑らすのだろう」と考える日々になりました。誰も答えを教え

てくれませんでした。私のイメージはどんどん膨らんでいきました。
こんな経験から、子ども達の「なぜ?」を大切にしたいと思っています。静私幼にもみんなの「なぜ?」から生まれた話題がいっぱいです。ぜひ探してみてください。

広報委員 しょうえい幼稚園 石川 望